

## 繁殖を目的としたアジアゾウの輸送箱馴致と搬出について

○藤澤加悦, 佐藤英雄, 飯野雄治, 古田洋, 渡辺海咲, 小松愛実  
(横浜市立よこはま動物園)

現在横浜市内には3つの動物園があり、よこはま動物園では3頭(オス1頭、メス2頭)、金沢動物園では2頭(オス1頭、メス1頭)の合計5頭のインドゾウを飼育している。これまで、両園共に繁殖には至っていない。そこで、よこはま動物園のメス(チャメリー・25歳)を金沢動物園に移動することで、新たなペアを形成し繁殖を目指すことにした。輸送予定日はよこはま動物園、金沢動物園の両園が共に休園日である9月20日(火)に設定した。

輸送箱はW2105mm×H3000mm×L5570mmを使用した。設置場所はゾウ舎の動物搬入口とし、アンカーボルトとワイヤーで固定をした。ゾウの輸送箱への馴致は6月28日から開始し、最初は輸送箱に対して警戒心が強かったため、馬栓棒を入れた状態で箱内から給餌をすることから始めた。馴致開始7日目に前肢を箱内に入れ、9日目には後肢も入れるようになった。その後も毎日朝と昼の2回輸送箱への馴致トレーニングを実施した。

また、よこはま動物園のメスゾウ2頭の結びつきが強く、2頭を分離することで興奮し輸送箱へ入れることが困難になることが予想されたため、輸送当日はメス個体2頭に鎮静剤(キシラジン)を投与して輸送を行うことにした。そこで朝の輸送箱馴致と並行して、鎮静剤投与の馴致を行った。また、個体に合わせた投与量の確定をおこなうために、日を変えて鎮静剤の投与試験を4回実施した。

本発表では輸送箱馴致から、搬出当日までの経過について報告する。